

い要望でございました。

これについて、どうにもならんとか、いやそれは話し合いの余地があるということがあれば、部長のほうでも、あるいは市長のほうでも結構ですが、今のここで簡単な答えが出せるはずはないんですが、そういう熱望です、現場は。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ただいまの御質問の件につきましては、ちょっと私も詳しい内容をちょっとよく理解できませんので、もう少しあとでも詳しい話を聞いた上で、後日でも回答をさせていただきます。

○議員（15番 大浦 孝司君） これで終わります。

○議長（小川 廣康君） 以上で、大浦孝司君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 昼食休憩といたします。再開は1時ちょうどにいたします。

午前11時54分休憩

午後0時58分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

報告をいたします。淵上清君から早退の届け出があっております。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。

7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 清風会の船越洋一でございます。

通告に従いまして、大きくは2点について市長に質問をいたします。

まず、1点目は木質バイオマス発電についてであります。昨年9月定例会で質問をいたしました。市長の答弁では自然の状況に左右されない安定した事業であり、林業の振興と雇用の確保につながる理にかなった事業であるため、その事業の実現に向けて振興局と市が連携して支援策を検討しているとのことでありましたが、6月定例会前にきた議会答弁等事案対応経過報告書を見ますと、平成29年9月の基本合意をめぐりタイムスケジュールを作成し、九州未来エネルギーや対馬木材事業協同組合も含め、それぞれの機関がスケジュールに沿って検討していくが、チップ価格差の問題が大きく、事業着手へ踏み込める判断にはいたっていない。また、県、市としてランニングコストに対する支援は難しいとのことでありますが、市長の今後の取り組み、また考え方についてお伺いをいたします。

次に、巖原市街地の活性化策について3点お伺いをいたします。

まず、大町通り、馬場筋通りの街路灯についてであります。県道巖原豆蔵美津島線で西の浜

から八幡神社までの間は街路事業で県が施工されており、無電柱化され、また歩道も広く、景観もよく、西の浜から臨港道路とつながり、市民あるいは観光客の朝夕の散歩、ジョギング等大変市民に親しまれている道路であります。しかし、歩道に設置されている石にデザイン灯が足元を照らすためつけられておりますが、足元もよく見えないぐらいの明かりであります。昼は電柱もなくすっきりとした景観ですが、夜になると暗く死んだ町並みになるようになります。明るいとこには犯罪も起きません。県と協議をしていただき、水銀灯でもつけ、明るい街にできないか伺います。

また、八幡神社から国道382号線の整備が中村工区、宮谷工区と進められております。ここも無電柱化されると思いますが、ぜひこの路線も水銀灯の設置をお願いしたいと思います。

あわせて、横断歩道のある場所は電灯をつけ、明るくしていただきたいと思いますが、市長の考えをお伺いをいたします。

次に、市道横町線についてであります。平成26年度から5カ年で計画され、現在用地交渉が各地権者と進められておりますが、平成29年度までに郵便局以外の地権者との用地交渉を終え、順次工事に着手されると聞いておりますが、現在までの進捗状況と今後の計画について伺います。

また、森木材横の浜殿神社は、昭和29年11月に時の巖原町長と八幡神社との間で借地契約が取り交わされ、消防格納庫を改造するため、神社の石垣を一部撤去し借地するとのことでありましたが、消防格納庫を撤去解体後は速やかに原状に復旧する旨の契約が取り交わされているにも関わらず、現在にいたっております。この際、横町線改良工事にあわせて町なかのメイン通りになるところでありますので、当時のように石垣を修復し、城下町に相応しい景観にできないか、これもお伺いをいたします。

次に、市街地内の各区の無集会施設の検討についてであります。棧原から久田道西里地区まで11区あり、集会施設があるのは棧原地区と久田道西里地区の2地区であります。この後の9地区は消防格納庫、半井桃水館、交流センター、神社等でこの総会、班長会議等が行われている状況であります。各区長さんは市長から委嘱を受け、行政と地域のパイプ役として活動をしていただいているわけですが、身近に集まる場所もないため、いろいろな活動をするにも支障をきたすことが多く大変苦労されております。高齢者の方々の集まる場所もない状況であります。高齢化が進む現状を考えますと、各区に高齢者の方々が気楽に立ち寄れるコミュニティ的な集会施設は必要だと思いますし、また地域包括ケアシステム構築の観点からも、住まい、医療、介護、予防、生活支援の提供される場所として集会施設は必要だと考えますが、市長の考えを伺います。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 船越議員の御質問にお答えいたします。

まず、1点目の木質バイオマス発電事業につきましては、平成28年9月定例会の一般質問において、山林が約9割を占める対馬においては、林業の活性化と雇用の拡大につながる大変有益な事業であるものの、問題点も多く、行政としての支援のあり方を県と一緒に検討していくと答弁させていただいているところでございます。

木質バイオマス発電事業は、平成25年度に提案されてから今年で5年目になるなど長期に及んでいます。発電事業者の資金計画を考慮して本年9月ごろまでを基本合意のめどとし、スケジュールを設定し、現在取り組んでいるところでございます。木質バイオマス発電事業につきましては、これまで振興局とのプロジェクトチームによる会議を毎月行い、問題点の整理と情報の共有化を図ってまいりました。特に発電建設場所の峰港への見直しや行政の支援の内容、チップ価格差に対する意見交換等を行ってまいりました。

昨年9月定例会以降の取り組み状況といたしましては、事業者と対馬木材事業協同組合に複数回来庁いただき、協議を重ねてまいりました。具体的には未利用材を安定して供給できる仕組みづくりとして路網計画や高性能林業機械の導入計画を策定し、また、再造林しなければ主伐では補助がないことから県及び関係団体において、保育基金創設の仕組みづくりの検討に着手していただいております。

また、チップ価格差の是正のため、発電所側のチップ買取価格の引き上げ策として発電所の付属する施設への補助事業による支援や固定資産税、土地使用料の減免の検討を行っております。さらに、チップ供給側の供給価格引き下げ策としまして中間土場を整備し、国境離島新法を活用した輸送コストの低減やチップ供給施設への移動式チップパーの導入など検討し、事業者に提案しているところでございます。また、地域材供給倍増協議会の素材生産業者に進捗状況を説明し、材の供給への協力を今後仰いでいく必要がございます。

最後になりますが、事業化ができれば対馬の林業振興に大きく寄与することは明らかであります。これまでの協議における問題点として、現在提示されている原木の調達価格で20年間に及ぶ未利用材の安定的な供給ができるのか。また、チップ価格差が大きく解消できるのかなど、非常に厳しい状況であると感じております。

市と県においてやれるだけの支援策を逐次事業者に提示しており、事業化の判断は事業者に委ねたいと考えているところでございます。仮に今回のバイオマス発電の基本合意にいたる結論が出なかった場合でも、対馬の現状に合った規模のバイオマス利用策の検討を引き続き行い、林業成長産業化へ向けた問題解決へ取り組んでまいりたいと考えているところでございます。

次に、2点目の大町通り、馬場筋通りの街路灯についての御質問でございます。

本路線は都市計画道路、巖原豆殿美津島線道路改築事業として平成15年度から26年度にかけて県事業により整備された路線であります。照明、防護柵、街路樹灯のデザインにつきまして

は、地元の住民、学識経験者等で構成された厳原町美しいまちづくり推進委員会で協議され、城下町をイメージし、町並み景観に配慮したデザインに決定されたと聞いております。

議員御指摘の街路灯でございますが、現在は石に埋め込ませた足元を照らすだけのフットライトが設置されておりますが、暗いという意見もあり、県に確認しましたところ、厳原郵便局前から厳原港交差点間のフットライトにつきましては、灯具を照度の高いものと交換する工事を発注済みで、間もなく完成予定であり、残りの分の交換につきましては今後検討していきたいとのことでございます。また、一般国道382号線整備工事の中村工区、宮谷工区につきましては、今年度景観に関する検討委員会を開催し、照明、防護柵、街路樹灯の検討を行う予定であるとのことでございますので、市も要望を伝えたいと考えております。

3点目の市道横町線につきましては、平成22年度より第2期厳原城下町地区のまちづくり事業として着手し、平成27年度からの第3期事業へ引き継ぎ、第3期事業の軸として整備を進めております。現在までの経緯については、第2期事業の5カ年で沿線の方々への事業説明、また地域住民や有識者を交え、道路構成や景観形成に関するワークショップ等を重ねてまいりました。それらの意見をもとに、平成27年度から本工事に向けた用地補償等を鋭意進めているところでございます。

横町線完成後の意匠については、前期で行いましたワークショップの意見を踏まえ、道路、歩道、道路照明等、大まかなデザインの方向性は決めております。道路照明におきましては、足元が明るく維持管理が容易な汎用品を使用する方向で検討しております。道路の意匠に大きく影響を与える使用資材やその色合い等は、本年度沿線の方々や関係者と再度協議を行い、最終決定したいと考えております。

現在のところ、国、この県道の交差点部分の照明は、高さ4メートル程度のポール照明方式、交差点以外は高さ1メートル程度のアプローチライト方式が採用される見込みであります。

最後に市街地内の各区の無集会施設の検討についてであります。現在厳原市街地の各地区における地区集会や地区イベントの際は、対馬市交流センターを初め、市役所厳原庁舎の会議室、半井桃水館などの施設を御利用いただいているところであります。基本的に地区集会施設の建設は、地区において用地を確保していただくことが1つの条件となっておりますが、厳原市街地には適当な市有地もなく、土地価格等を考えると現在まで集会施設が整備できなかったことも無理からぬことと思っております。

従来、社会を支えるためには自助、共助及び公助と考えられてきましたが、今後さらに進む少子高齢化に向けては、世代間を超えた地域の人々の互助による地域コミュニティ再生への取り組みが求められています。全国社会福祉協議会は「ふれあい・いきいきサロン」と称し、地域を拠点としてその当事者が企画から運営を行う、仲間づくりの活動を提唱されており、各地において

公共施設から空き家やお寺などさまざまな場所を拠点として活動が展開されております。ただし、空き家自体は個人の財産であるため、あくまでも行政としては地域ニーズに応える形で地域コミュニティの維持・再生に必要な機能展開を支援するという立ち位置が取られているところでございます。支援の方法といたしましては、活動拠点の開設準備費用やその後の運営費用に対する助成制度などが挙げられ、本市においてもその検討することは可能であると考えております。

以上でございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） まず1点目のバイオマス発電についてお伺いしたいと思います。市長、このバイオマス発電、去年の9月やったんですが、それからもう9カ月経過しております。いろいろその県との打ち合わせもやってあるという報告ですが、市長本人としてこの事業はやる気がありますか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私本人といたしましては、やりたい事業というふうには考えてはおりますが、この答弁の中でもちょっと申しましたように、今、年間約1億1,000万程度のランニングコストが不足している。これをいかにするかということにちょっと今振興局とともにいろいろ協議を進めているところでございます。これが解決できればぜひやりたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） それだったら誰でもやるんです。難しいからやる気がありますか。ということをお聞きしとるわけですが。九州管内でもバイオマス発電というのは民間でやとる事業所もありますよね。この九電みらいエナジーがさらに5,000キロのやつをもう運転開始いたしますよね。条件的にはみなさん一緒だと思うんですよ、発電所があるところに木がいっぱいあってそこをすぐやるわけじゃないわけですから。そこに持ってくるのは、おそらくどこも山から切った木をそこに持ってきて、チップにしてそこに持っていくはずなんです。だから、条件的にはそう変わりはないと思うんですが、どこに問題点があるのか。それを例えば今九州管内でやとるところを、担当部長でも視察に行つて、状況をしっかり把握しとるのかどうか。それちょっと聞かせてください。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたように1番のネックは、私自身はやはり年間発生する1億1,000万の価格差だと思っております。そして2番目が年間に約3.3万トン未利用の原木の単位で、これをチップに直せば2.6万トンになるそうでございますけれども、これが現在対馬で供給できるのが1.1万トンから1.2万トンだというふうに聞いております。それで、

この2.6万トンに対して不足する部分につきましては、本土のほうからのまた再度持ち込まなくてはならないということがございます。これも1つの大きな問題だというふうに聞いております。そういうことで、対馬市といたしましてはこの未利用材を多く集めるために、路網計画とか高性能機械を入れようということで今協議を進めているところでございます。そしてまた、担当職員のほうが視察に行ったのかということでございますが、ちょっとそこにつきましては担当部長のほうからお答えさせていただきたいと思っております。

○議長（小川 廣康君） 農林水産部長、西村圭司君。

○農林水産部長（西村 圭司君） 私本人が行ったことはございませんけれども、担当者レベルで県と一緒に視察はさせていただいているところでございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 部長は行ってないけれども担当が行ったということですが、そこで調査はしてきとるはずなんですよ。それを対馬に置きかえてみたときにどうなのかということが今市長の答弁だと思うんですけどね。ただね、よく考えてくださいよ。このただ単価のことだけを今市長は言いますが、要はそれについて、例えばこの前も市長も言いました川上、川下の話もしましたが、山から間伐をして木を持ってきますよと。1カ所に集中するんじゃないし、中間施設を置いて、そこで集約をした中で、そこで今、海岸漂着物で木材をチップに変える機械がありますよね。今2台対馬市もあるんですが、これが機能してませんよね。我々調査しましたけれども。だから、そういう機械でもそういう中間施設に持って行って、そしてそれをチップにして、そのまま運ぶというようなことも可能でしょうね。いろいろな考え方があると思うんですよ。ただ1億1,000万の出費が出るから無理だと。事業者任せると。そういうことで民間事業者に赤字を出させてまで行政は黙って見ておくんですかということになるんでしょうが。それじゃあ誰もする人間はおりませんよ。例えば1カ月ぐらい赤字が出るから辛抱してくれというのであれば、それは民間もいいでしょう。しかし、20年間なんですよ。20年間赤字で誰がする人間おりませんよ。だからそれには、対馬が、今市長が言われるように、90%は山林なんです。この山林を生かすためには少々な犠牲は払わないかんでしょう。払ってでもやらないかんと思うんですよ。例えば企業誘致は今きませんが、企業誘致がきたにしても、今先ほど言われた土地の減免とか固定資産税の減免とかそれはどこもしますよね。誘致をすればするわけですから。そういうことを言っとるんじゃない。それは当たり前のことなんです。しかし、もう少し踏み込んだ中で、できることがないんですかと。値段を詰めていくにはどうしたらいいかということをもう少し真剣に考えてくださいって私は言いよる。9カ月間経っても進展してないんですよ、今。今、答弁聞いとってもこの報告書見てでも、進展がしてないからまたあえて私は聞かんにゃいかんわけです。私もこれは重要な事業だと思うんですよ。林業を活性化させるためにはね。

今、ながさき森林環境税というのも出てますよね。これは森を保全するために出とる補助金だと思うんですよ。これは間伐した木を放ったらかしとるから、これをきれいに整理をして、持って整理をなさいと。それで森林の保全をしましょうということなんです。そういう金もあるんでしょうって。あるんでしょう。そういうことを例えば林業業者が間伐をしたら、きれいにA、B、C、D、1本の木は間伐じゃないその成木でも大きな木は根っこからA、B、C、Dとなるわけですから。その木を、枝を端折るわけですから。枝を端折る機械もいるからということで、今業者さんは対馬3台入れてますよ、それは、1,800万か2,000万かするやつをですね。それで、国の補助金ももらいながらそれを買って、用意はしていますよ。ところが、県も市も動きませんよということでは、先に移らんでしようということをお願いする。ですね。足らん分はよそからでも持ってこないかんというようなことじゃなしに、それは引き受けますと、できますということをお願いするわけですから。ということは、ネックになつとるのはお金のことだけですよ。お金、ですね。この前も言いましたが、市有林等はまだまだたくさんあるんです。市有林。そこもまだまだ間伐していないんです。40年も50年も経つとるけえたくさん立つとるんです、市有林は。市長の仕事は市の財産を有効に活用して、利益を上げとかないかんわけですよ。財産管理するのはあなたの仕事ですからね。そういうところにも、しっかりと目をつけた中で、どうしていくのかということをしっかり考えてくださいよ。そう思いますけどね。お願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 今、県の森林環境税のお話がありました。こちら辺も既にこの中に入れられた上での単価差でございますし、高性能機械も導入を計画しております。そして、路網計画も入れております。それからまた、先ほども話がありましたように、効率化をするために中間土場も設けようといったところでの、できるところは全て計画に入れ込んだ上で、年間約1億1,200万の差が発生すると。これを対馬市が今後20年間補填できるのか。22億近くを。ちょっとそこは私も22億まで補填してまでは難しいというふうに考えております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 市長、その金を出してまでやれと私も言いませんよ。1億1,200万ですか、これを年間かかるのにそれを出してまでやれとは言いませんが、いろいろ高性能機械も入れてどうのこうのっていうこともあります。これは国の補助で入れられるんですよ。これは民間の人たちはもう入れとるんですよ。路網計画ってというのは、これは業者がやっついていかないかんでしょう。先ほど言いましたように、市有林についてでもそうなんです。だから、そういうところは市が携わっていかないかんでしょう。で、値段の格差ってというのは、この前言いよったのは3,000でしたかね、市長が言いよったのは、3,000でしたね。

○市長（比田勝尚喜君） はい。

○議員（7番 船越 洋一君） それで3万5,000トンですか。

○市長（比田勝尚喜君） 3万3,000。

○議員（7番 船越 洋一君） 3万3,000トンですか。それをそういうところのいろいろな事業、例えば中間土場を置けば、間伐してたやつを中間土場に持っていけばそれから安くなるわけですから、それは下がりますからまだ。そういうところの研究はされていますか。していますか。してそれですか。

○市長（比田勝尚喜君） はい。

○議員（7番 船越 洋一君） してそれ。それじゃあこの前の金額と合いませんよ。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 先ほども申しましたけれども、県の振興局とも毎月1回このことにつきましてプロジェクトチームでいろいろと協議を重ねているところがございますけれども、今申しましたようにこちらとしても考えられることは最大考えた上でやると。ただし、今現在の価格差は7,000円で山側の売値となっておりますけれども、これがチップにする側では3,600円でしか買うことができない。そこに3,400円の差が発生するというので、これらが今ネックになっているということでございます。それで年間約原木の3万3,000トンでかけますと、1年間に1億1,200万円の差が出ていると。これをどうカバーしていくかということで、今悩んでいるところでございます。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） それであれば、他の自治体もできないはずなんですよ。九州管内でやるところでも。ほかのところでもできんはずでしょう。これでそんだけかかるのであれば。だけでも、何らかの知恵を絞るとんやないかということで、担当部長さんに先ほどお聞きしたのはそういうところにも出ていって、どういうふうなシステムでやっとなのかっていうのを勉強してきましたかっていうことを聞いたのはそこなんですよ。ですね。ほかの地域は同じ条件だろうと思うんですが、平たいか山かっていうことだろうと思うんですが。そういうところもしっかり勉強した中で、県振興局との打ち合わせは、ほかのところではこういうことでしたと、ここをこういうふうに詰めることによってこうなりませんかね、こういうところからこう持ってくることによって、これももう少し下がりますねということをやってくださいということを私は言いよる。だから、そのほかのところでも地域にでも勉強しに行って、しっかりした資料を持ってきた中で自分のところに置きかえて、それをどうしていくかっていうことを考えてくださいというお願いをしよるんです。よろしいですかね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） そこは、またあと9月まで少々時間がございますので、できる限りのこ

とはやっていきたいというふうに思っております。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） これに時間取り過ぎたら後がいけませんので、これでやめますが、とにかく先ほど言うたそこら辺もしっかり踏まえた中で、よりよい方法がないか、検討もよくよく協議をしていただいて腹据えてちょっと市長頑張ってみてください。私振興局長とお話する機会ありまして、正式じゃないですが、振興局長恐らくもう2年くらいで帰られると思うんですけども、しかし局長対馬におる間に何か1つ俺が対馬におるときにやったぞというようなもの1つ残してくださいというお願いもしてきましたけどね。特にそれにはこのバイオマス発電っていうのにしっかり取り組んでいただきたいというお願いもしておきました。そういうことも踏まえまして、市長ひとつよろしくお願いしときます。

それから2番目は大町の街路灯ですね、街路灯。これは先ほど市長からも聞きましたが、この前私も歩いてみましたよ。石に付いとるデザイン灯っていうんですか、ぽつんぽつんこうついとるんですよ。足元もよく見えんような明るさなんですよ。よくこれでみなさん黙っとったなと思うんですよ、本当に。先ほど言いましたように、昼は町並み、景観はいいんですよ。夜になると暗いんです、真っ暗。足元にぽつとしかついてないわけですから。これは臨港線のところについとるような電気であればまだまだいいですよ。それどころじゃないですよ。足元にぽつとついとるだけですよ。これをそのまま美しいまちづくり検討委員会だったか、そこで検討されたということですが、よくよくこんな検討されたなど、私思いますよ。だから、水銀灯でもいいんですよ。景観ばかり言うとなったら暗くて人がこけてけがでもするより、犯罪が起きるよりも明るくしたほうがまだいいんですよ。ですね。そういうことも含めてしっかり検討してみてください。それから、先ほども言いました、県のほうにお願いをすることですからね、市長がやれることじゃないんですから、私も県のほうとしっかり協議をしてくださいというお願いをしよるわけですから。

それともう1つは川端通り、これは旧巖原町時代に川端八橋事業ということで、橋をずっとやり替えて、それから今の中学校のところから街路灯を佐野屋橋までずっとつけとるんですよ。ついとるんですよ、今。大町にはついてないんですが、川沿いにずっとついてます。ここもこの前、夜行ってみると8つくらい電気が消えてますよ。消えてます。東川端のほうは国道なんですよ。西川端は市道ですよ。国道のほうは水銀灯はずっとついてますよ。しかしそこにも市がつくった、町がつくったデザイン灯っていうのはが一つついていっとるんですが、それも消えますよ、8灯くらい。そういうところがね、やっぱりしっかりと見た中で観光客をしっかり受け入れるのであれば、明るい健全なまちをつくり出しとかんにやいかんと思うんですよ。特に先ほど言いました大町、馬場筋通り、ここら辺もしっかりと検討、打ち合わせをしていただいて、明る

い町並みにできるようにひとつ御尽力を賜りたいと思います。よろしいですかね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） このことにつきまして、また県のほうへ要望したいと思いますが、先ほどのこの大町通りのこの街灯といいますか、これにつきましては私考えるところではやはり無電柱化ということでのイメージがありますので、恐らくそういったフットライトを美しいまちづくりの皆さんが協議された上で、県がそのような構造に採用したのではないかなと私自身今思っております。それから今、指摘がございました川端線のほうにつきましては、再度また市道のほうは調査いたしまして消えてる電球は交換をしたいというふうに思います。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 私も市長が言うとおりに思うんですよ。無電柱化した意味がね、そういう意味だろうと思う。しかし、特に今は韓国人観光客が多いですね。そうすると、そういう人たちも夜よく散歩に歩くんですよ。そうすると、巖原の市街地の人も昼は日中暑いから、夕方とか朝早くとか歩くんですよ。そうすると、夜暗いところで外国人と会うということになってきますよね。やはり何か不気味な感じがするんですよ。だから、そこら辺も含めた中で考えてみてくださいというお願いしとるわけですからね。県ともそこら辺もしっかり打ち合わせをよろしくお願いします。

それから今度は横町線ですね。この横町線はあそこは12メートル道路ですよ。歩道が2.5、2.5で、車道は6メートル、3メートル、3メートルの路側帯で50センチ、50センチですからそれで12メートルになると思うんですが、それで間違いないですか。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） ちょっと私そこまで把握しておりませんので、担当部長のほうに答えさせていただきます。

○議長（小川 廣康君） 建設部長、佐伯廣教君。

○建設部長（佐伯 廣教君） 横町線でございますが、幅員構成といたしましては車道部片側3メートルと路肩50センチで3.5の両方で7メートル。両方に2.5メートルの歩道がつきますので、全幅は12メートルとなっています。

以上です。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） あそこは大町通りと川端通りをつなぐ一番メインの通りなんですね。ここも先ほど言いましたようにやっぱり明るくしてもらわないかん。ここは市道ですから、市のほうで対応はできると思うんですね。そこら辺をしっかり踏まえた中でちょっと考慮してみ

てください。それと、あそこには石垣が今ありますよね。石垣の復旧はされるのかされんのか。茂村さんところは、石垣があったところは低くして、石垣ついでいただいていますよね。それから大西さんの前のところも石垣を復旧していただいております、駐車場のところですよ。今度は、よこまちやさん、ここも石垣がありますね。それから、児童公園、ここの石垣もありましたがこれも取っ払ってありますから、そこはどういうふうにされるのか。そこに大きな榎の木がありましたよね。榎の木が立っつた、それをもう切ってしまうとるんですよ。やはりこういう市街地の中にある榎の木っていうのはすぐ大きくなるんですよ。あれはもう100年くらい経つと思うんですが、そういう木も勝手にぼんぼん切ってしまうんじゃないしに、どこかにそれを移植して置いておいて、そういうのを活用するというくらいは行政が考えてくれんと、民間の人じゃあそういうことはできませんからね。切ってしまうた後、何を言っても一緒ですけども、そういうところの配慮も私はいると思うんですよ。

それともう1つは、その浜殿神社の件ですが、これ先ほどちょっと市長には言いましたけどね、この昭和29年に当時の巖原町長とその八幡神宮の宮司さんと契約しとるんですよ。もともとあそこは消防小屋があったんです。消防小屋。そこに観光物産、それが消防小屋が出て、観光物産協会が入ったんです。それが古くなったからって言うて解いたんです。解いたときに本来は石垣を復旧しとかないかんやった。それを今バス停をつくつとる。それで知らん顔しとる。それはないでしょうと。だから、そういうことも皆さん地域の人にはわからんから黙つとると思うんですが、そういうところはそういうところでやっぱり復旧しますっていう契約には書いてあるわけですから。

それともう1つは、あそこのほうには横町線は入り込んできませんけども、郵便局のほうに行くわけですから入り込んできませんが、あそこは歩道がちょっと広がりますよね。そうしますと、あそこに神社があるんですが、この神社の石垣の崩れてしまうんですよ。私も神社に行きましたよ。ところが、あそこの神社は八幡神宮の管轄じゃないんですよ。あれは単独の神社なんです。八幡神宮の系列であれば八幡神宮がせないかんのですが、単独の神社なんです。ところが誰もおらんわけですよ、今。そうするとあのまま放つとくちゅうわけいかんでしょう、と思いますよ。それも1番街の中のメインになる場所なんですよ。そこはやはり考慮をしながら、ここがどうやから、あんなところやから、これはできませんとか言うんじゃないしに、町並み景観事業の中でそういうこともしっかり石垣をきれいにどっちみち進まないかんわけですから。復旧してやらな、返さないかんわけですから。それであればそこまで含めてちょっとすることによって町並みがきれいになりますんで、そういうこともひとつ考えてみてください。お願いします。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） その神社のところの経緯につきましては、建設部のほうにもそこら辺の古い書類が今ないということで、また今後いろいろ聞き取り等をして、対応できるところは対応したいと思いますし、今おっしゃられたように、今の石垣等は工事の中で補償工事等でできないか、それかまたそこら辺もちょっと担当のほうにいろいろと問い合わせしてみたいというふうに思います。

それから、先ほど大きな榎の木等が切られてしまっているということでございましたが、ちょっと私もそこはまだ把握をしておりませんでした。大変申し訳ございません。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 今から工事はかかっていくわけですから、これは平成31年までに完了するんですかね。31年の3月ですか。ですね。これは5カ年やったから31年の3月には仕上げにやいかんと思うんですが。

○市長（比田勝尚喜君） 32年。

○議員（7番 船越 洋一君） 32年。32年そうですか。あら、31年と思ったけどね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 済みません、31年度っていうことでございますので、32年3月までということ。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） 31年3月ですね。

○市長（比田勝尚喜君） ですから32年3月。

○議員（7番 船越 洋一君） 間違えんようにしてくださいや。32年の3月。はい、わかりました。よろしく願います。それから、浜殿神社の件、ひとつよろしく願います。

時間がだんだんなくなってきましたが、今度は市街地内の各区の無集会施設、この件なんですが、今区長さんが9人いらっしゃるんですけども、棧原、久田道西里を集会施設があるわけですから、ここを除けたらほかのところは9施設ある。9区あるんです。その中で、区長さんは9人なんです。班長さんは214人いらっしゃる。9つの区の中に班長さんは214人いらっしゃるんですよ。そうすると、区長さんは市のほうで委嘱を受けとるわけですから区長報酬が出ますよね、ところが班長さんたちは区費というのを区長さんが集めてその地域の管理をしてくんですよ。その中から班長さんには班長手当っていうのが出ていくわけですよ。小さく言っていけば。そういう人たちが例えば回覧板がきたときにはその回覧板は少ないところであれば、区長さんが全部持ってまわるでしょうし、多いところであれば各班長さんに区長さんが持って行って、それをぐるっとまわしてもらおう。これが通常のやり方だろうと思うんです。やっぱり大変な苦勞されてますよ。そういうこともありまして、例えば地域には民生委員さんもおられるでしょう。そう

しますと、先ほど言いました地域包括ケアシステム、こういうことの観点からいきますと、今、桑原先生が一生懸命在宅医療とか地域包括統括官でやっていただけていますが、これ大きなティアラ辺りでこうって講義をやったってなかなか人は集まりません。しかしながら、こういう小さいところの区にそういうところがあればそういうところに入り込んでいって、おじいちゃん、おばあちゃんを集めて話もできるでしょうし、ましてやそういう人たちが集まる場所もないんですよ、今。区長さんも班長会議をしようって言ったって、ティアラにきょうは来てくださいって言うたって仕事帰りにあんところまで行けるかってなるんですよ。班長会議もままならん。それにはやはり各地域に空き家があればね、空き家。空き家があれば空き家でも借りて、そこでそういうことをやる。あるいは、また年寄りの方たちはそこでいろんな話もできるでしょうし、何て言いますか、いろんな話をしていきながら、地域のことも話せるでしょう。そういう場が必要じゃないですかっていうことを私は言いよる。地域包括ケアを進めていく上で、それはぜひ私は必要じゃないかなと思いますんで、どうでしょうね。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 冒頭の答弁の中でもちょっとお答えをさせていただきましたけども、なかなか今、地区の集会施設がない9地区に全てそういうふうな集会施設を新築するとか、または全ての地区に空き家を改修して地区集会施設にするとかいったところまではちょっとなかなか行き届かないとは思いますが、議員おっしゃられるようにやはり地域包括ケア等のシステムを進めていくためにも、1地区1カ所じゃなくても、巖原の街なかで例えば1カ所、2カ所とかそういう形で空き家等を改修されて、お年寄り等が集まれる場所、そしてまたちょっと集まってお話されたり、お茶を飲んだりされる場所というのは今後私たちも必要であるというふうにお考えしておりますので、こういったところに助成制度を設けることは可能であるというふうにお答えをさせていただいたところであります。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） なかなかいい答弁なんですけど、やはり1区に1つずつつくってことじゃあないんですよ。例えば田淵とか天道茂とかを1つにしてね、空き家を1つ利用して、そこでいつでも区長さん鍵持っとして。班長っていうたら宮谷地区なんか50班あるんですよ。班長さんが。日吉が34、天道茂が20、中村18、今屋敷15、田淵23、大手橋20、国分17、久田道17、こんだけ班長さんがおられる。班長会議しようにもどこでするんですかとかうなってくるんですね。久田道あたりはあそこの金比羅さんのところで、そこでやりよるらしいんですよ。金比羅さんでね。やっぱりそういうところを借りてやらないかんということじゃなしに、自分たちの地域にコミュニティ的なそういうところがあればいつでも気楽に行って、じいちゃん、ばあちゃんも来て、いろんな話もできるでしょうし、また何ちゅうんですか、独居老人の

方もおられるでしょうし、痴呆の方もおるかもわからん。そういうのはやっぱり民生委員さんもその中に入った中で、その地域、地域をグループで1つずつやっていけば、地域包括ケアっていうのは充実してくると思うんですよ。そういうことも含めた中で、しっかりと区長さんの意見も聞いて取り組んでいただきたいなと思いますが、いかがでしょう。

○議長（小川 廣康君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝尚喜君） 私自身もこのことにつきましては、今後必要なことだろうというふうに考えておりますので積極的に取り組んでまいりたいというふうに思います。

○議長（小川 廣康君） 7番、船越洋一君。

○議員（7番 船越 洋一君） ちょうどいい時間になりました。大変御無理なこといいましたが、ひとつよろしくお願いしときます。この対馬市街地の中がやっぱりこう何と言うんですか、地域、地域がやっぱり活性化していかんと街はよくなりませんのでね、明るいまちづくりをしっかりとやっていただきたいと思います。よろしくお願いしときます。ありがとうございました。終わります。

○議長（小川 廣康君） これで船越洋一君の質問は終わりました。

○議長（小川 廣康君） 暫時休憩します。再開は2時5分からといたします。

午後1時49分休憩

午後2時02分再開

○議長（小川 廣康君） 再開します。

引き続き市政一般質問を行います。

12番、波田政和君。

○議員（12番 波田 政和君） それでは、皆様、改めまして、大変お疲れさまでございます。

12番議員の波田政和でございます。

一般質問に入る前にお時間をいただきまして、先般行われました対馬市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆様方から多くの信託を受けまして、この場に立たせていただいたことに対し、改めて決意を新たにすところでございます。

本当の意味での御期待にこたえるべき、議会改革と政策提案をもってお答えする覚悟でございます。

また、市民と行政をつなぐパイプ役として私を使っただき、官民一体となり、住みやすい対馬づくりを目指し、ともに進んでいこうではありませんか。どうぞよろしく申し上げます。

それでは、本題のほうに入らせていただきます。